

令和6年度第2回次世代空モビリティひょうご会議

日時：令和7年3月19日（水）15時～16時30分

場所：兵庫県庁2号館5階庁議室

（事務局）

令和6年度第2回次世代空モビリティひょうご会議を開会いたします。

本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

それでは開会にあたりまして、斎藤知事からご挨拶を申し上げます。

（知事）

第2回となる次世代空モビリティひょうご会議にご出席いただきまして、ありがとうございます。

いよいよ4月から万博が開幕します。万博開会中には会場周辺のベイエリアから、様々な機体によるデモフライトが予定されており、皆様の関心も高まってきてるところです。本日、ご出席いただいている丸紅様におきましても、バーティカルエアロスペース社の機体による尼崎フェニックス事業用地と万博会場を結ぶデモフライトも予定していただいております、是非とも成功していただきたいと考えています。

また、この機会に合わせて子ども達に空飛ぶクルマをより身近に感じてもらえるよう、尼崎フェニックスのバーティカルポートでは、フライト見学や技術者との座談会などのイベントも予定しております。是非、社会実装に向けた機運がより高まっていくよう、関係者と連携しながら盛り上げていきたいと考えております。

今年は阪神・淡路大震災から30年という節目になります。これまで県では、震災の経験と教訓を生かし、防災力の強化に力を注いできました。

一方で、自然災害の脅威は増しております。特に、能登半島地震が昨年に関わり、多くの孤立集落が発生したことから、物資輸送が大きな問題になりました。

そういった意味でも、物資輸送などにおいて空モビリティというものは、大変重要になってきています。ドローンや将来的には空飛ぶクルマを使って、災害時における対応をしっかりとやっていくことが大事だと考えております。

本日の会議では、県の補助事業に採択させていただいております5事業者の皆様から、成果報告を行っていただく予定です。昨年に引き続き、今年度も様々な取組をされており、社会実装に向けた取り組みを着実に進めていただいていると感じています。

また、都市部のみならず、但馬地域や淡路地域においても、勉強会やフォーラム等が開催され、空飛ぶクルマの期待や関心も高まってきています。観光や山間

地の移動にとっても大事なポイントだと思いますので、是非、兵庫県全体で、機運を盛り上げていくことが出来ればと思っています。今日の会議も含めまして、皆様と兵庫県が一体となって、取り組みを進めていければと思いますので、よろしくお願いします。

（事務局）

知事は公務の都合上、ここで退席をさせていただきます。

本日、出席の構成員の皆様につきましては、本来であれば、お一人ずつご紹介させていただくところですが、意見交換の時間を十分に確保するため、出席者名簿の配付にて変えさせていただきます。

なお、この会議の公開・非公開につきましては、開かれた行政運営のため、前回の会議と同様に公開とさせていただきたいと存じます。

次に本日の会議内容になりますが、まず初めに、今年度実施しました空飛ぶクルマ実装促進事業の採択事業者から、取組成果を報告していただきます。その後、県の事業報告としまして、令和7年度当初予算における空飛ぶクルマの主な取組についてご説明をさせていただきました後、前回会議で皆様からいただきました意見の総括及び来年度の当会議の進め方についてご説明させていただきます。最後に意見交換の時間を設けますので、ご意見やご感想など発言いただきたく思っております。なお、この会議の終了予定時刻は16時30分を予定しております。

この後の進行につきましては赤澤座長にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

（座長）

皆様、こんにちは。本日もよろしくお願いします。いよいよ万博も迫ってきまして、この会議に関係している方々をはじめとして、準備に大変ご尽力されておられることについて、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。

今回も多くの方々に発表をいただくことになっております。少し進行がタイトになるかもしれませんが、皆様、ご協力をお願いいたします。

では、会議を進めさせていただきます。まず初めに、空飛ぶクルマ実装促進事業補助金の採択事業成果報告になります。事業者からの報告の前にまずは、事務局から事業概要の説明をお願いします。

（事務局）

それでは資料8ページをご覧ください。令和6年度空飛ぶクルマ実装促進事業補助金の概要についてご説明します。

この事業は、県内において空飛ぶクルマを活用したビジネス展開を目指している事業者の取組を支援するもので、大阪府や大阪市、神戸市とも連携しつつ、昨年度から実施をしております。

補助内容は大きく分けまして、兵庫県・大阪府枠と兵庫県枠です。対象事業は、（１）ビジネス化に資する飛行実証等、（２）ビジネスモデルの検証、（３）離着陸場設置の準備の３つで、このうちビジネス化に資する取組については、補助額の上限を昨年度から引き上げておりまして、兵庫県・大阪府枠で 6000 万円、兵庫県枠で 3000 万円としております。

採択結果でございますが、兵庫県・大阪府枠が 5 事業、兵庫県枠が 1 事業となっております。事務局からの説明は以上です。

（座長）

ありがとうございます。それでは採択事業者の 5 社から発表を行っていただきます。まずは、一般社団法人MA S C様からお願いできますでしょうか。

（一般社団法人MA S Cから成果報告）

（座長）

ありがとうございました。少し音声トラブルがあったようですので、順番を入れ替えさせていただきます。続きまして、エアバス・ヘリコプターズ・ジャパン株式会社様からお願いできますでしょうか。

（エアバス・ヘリコプターズ・ジャパン株式会社から成果報告）

（座長）

ありがとうございました。続きまして兼松株式会社様、ご準備お願いできますでしょうか。

（兼松株式会社から成果報告）

（座長）

ありがとうございました。続きましてオンラインで丸紅株式会社様からお願いしたいと思いますが、ご準備お願いできますでしょうか。

（丸紅株式会社から成果報告）

(座長)

最後になります。三井物産株式会社様ご準備お願いできますでしょうか。

(三井物産株式会社から成果報告)

(座長)

ありがとうございました。5社から興味深いお話をいただきました。発表のご感想やご意見などにつきましては、最後の意見交換の際にまとめてご発言いただきたいと思います。少し時間が押しておりまして、10分程度会議を延ばさせていただきたいと考えております。どうしても退席しなければならないという方がいらっしゃいましたら退席いただいても結構ですので、10分程度延ばすことをご了承いただければと思います。

では続きまして、次第2―(2)の県事業報告及び今後の会議実施方針等につきまして、事務局からご説明をお願いします。

(事務局)

それでは事務局の方から簡単にご説明させていただきます。

資料11ページ、令和7年度当初予算における空飛ぶクルマの主な取組みについてご説明いたします。まず、資料左上の空飛ぶクルマデモフライトイベントです。万博会場と尼崎フェニックス事業用地の2地点間を結ぶデモフライトに合わせた気運醸成イベントを実施します。期間は万博期間中1ヵ月のうち土日の8日間、会場はデモフライトのポート及び尼崎万博P&R駐車場の隣接地で、兵庫五国の魅力発信を行う「ひょうご楽市楽座」会場において実施します。

次に、資料右上の次世代空モビリティひょうご会議、すなわち本会議ですが、来年度も2回程度開催を予定しています。

次に資料下段の空飛ぶクルマ実装促進事業です。先ほど各事業者の皆様から成果報告をいただいたところですが、来年度につきましても、引き続き実施することとしています。なお、ご説明しました内容については、現在、開会中の県議会定例会に予算案として上程したものであり、議決前であることを申し添えます。

次に資料12ページをお願いします。前回会議での意見総括と来年度の会議の進め方についてです。まず、昨年10月に実施しました前回会議でいただいた主なご意見についてです。前回会議のテーマでありました観光分野における可能性や課題について多くの貴重なご意見をいただきました。その上で、今後議論すべき内容として、

- ① 空飛ぶクルマ事業の方向性として、具体的なプロジェクトとして考え、バックワード的に取組みを進めていくこと、2030 年に向けて今から出来ることを考えることが必要とのご意見をいただきました。
- ② 事業化に向けた取組みとして、公益性の高い活用と組み合わせた活用策、事業者の負担を下げる取組を検討することも重要とのご意見をいただきました。
- ③ 社会受容性の向上・情報発信に向けた取組みとして、医療や災害活用など、県民にとっても自分ごと化できる情報発信やPRが重要、
- ④ 関連ビジネスへの波及に向けた取組みとして、県内の様々な産業へ波及させていくような支援が必要とのご意見をいただきました。

全体としては、一般論を議題・テーマとした会議内容は一定目途とし、具体的な方向性等を検討する必要があるとのご意見に集約されると受け止めています。

本県では、これまで「空飛ぶクルマの展開ロードマップ」に基づき、来年度の大阪・関西万博を短期的な目標として、取組みを進めて参りました。今後は、長期目標である関連産業のエコシステム形成に向けて、万博後に県として取り組む具体的な方向性等を検討する必要があります。

そこで、来年度の本会議では、「大阪・関西万博の開催を節目として、これまで議論してきた内容を踏まえ、空飛ぶクルマ事業における本県の今後の方向性等を検討する」ことを方針として、スケジュール案にありますように2回程度会議を開催させていただいて、方向性の案を提示できるよう、議論を行いたいと考えています。事務局からの説明は以上です。よろしくお願いします。

(座長)

ありがとうございました。では、意見交換に入りたいと思います。意見交換の内容は2点、1点目は各事業者の皆様から発表いただいた内容につきましてご意見などをいただくこと、2点目は先ほど県から説明いただきました今後の会議実施方針などについてご意見いただくこと、この2点についてご意見などをいただきたいと思います。

残り時間10分ほど使いましてこの2点についてお話を聞かせていただきたいと思います。今回は実装促進事業の事業者とともに淡路と但馬で取り組んでおられる地元関係者の方にもオンラインで参加していただいております。まず初めにその2名の方から「地域における空飛ぶクルマへの期待」についてのコメントをいただきたいと思います。

まずは淡路市の企画情報部付部長（まちづくり政策担当）の野田様、よろしいでしょうか。

(淡路市 野田部長)

淡路市の野田です。どうぞよろしくお願いいたします。昨年の実証実験に引き続き、今回も全国初となるソーラー発電の電力による空飛ぶクルマの実証事業が、ここ淡路市で開催されたことを大変嬉しく思います。淡路島は国からあわじ環境未来島特区として認定され、兵庫県、島内3市、地元企業等が連携し、あわじ環境未来島構想を掲げ、エネルギーの持続、農と食の持続、暮らしの持続の3つを柱に、生命繋がる持続する環境の島を目指しています。

今回、空飛ぶクルマの充電に使用した、淡路市役所にある太陽光発電設備、メガソーラー1は環境未来島構想の先導的モデルとして整備したものです。淡路市は地理的及び距離的優位性から大阪湾の対岸に位置する関西国際空港及び神戸空港と瀬戸内海を結ぶ空飛ぶクルマのハブ拠点となる可能性を大いに秘めています。

また、当市は年間の日照時間が関西圏で2番目に長いことから、大型の太陽光発電設備が市内に多く整備されており、真にCO2排出量で環境に優しいクリーンな移動を実現することになり得ることから、今後、観光や救急医療、災害対応など、インフラとしての活用による町の利便性向上や地域経済の活性化に繋がっていきたいと大いに期待しています。

今回の実証事業の見学会には、市民が300人以上訪れましたが、本市としては今後も官民が連携して、社会実装に向け、社会受容性の向上等に取り組んでいきたいと考えています。

(座長)

ありがとうございました。それでは、城崎で一緒に取り組まれています、城崎温泉観光協会会長の高宮様、よろしいでしょうか。

(城崎温泉観光協会 高宮会長)

城崎温泉観光協会の高宮でございます。本日はよろしくお願いいたします。私どもの取組については、先ほど兼松様からご紹介いただいた通りなのですが、城崎の地元の方では一体どのような形で取り組み、考えているのかという現状をお伝えさせていただければと思っております。

私ども城崎温泉は海外のお客さんも随分増えてきてはいるのですが、やはり空港からも非常に距離が遠く、アクセスが非常に大きな課題になっています。空飛ぶクルマが実装すれば、神戸空港からなんと35分で到着出来ると聞いておりまして、また、山陰エリアにはたくさん良い観光地があるわけですが、例えば城崎から天橋立までは10分で到着できると想定されています。空飛ぶクルマが神戸空港や関西空港など、色々なところから直接来られるようになれば、ますます観

光客の方に来ていただけるのではないかという期待が一番大きいです。

それからまちづくりとも非常に連携して進めておりまして、1925 年の 5 月に北但大震災という大きな震災で城崎温泉のまち全体が焼けました。もうすぐ 100 周年ということで、実はまちの計画を 2 年ほどかけて見直しています。

例えば、町中を通る車を減らしたいということで、バイパスを作って町中を通るの車を減らしたり、これから人口も減ってくるので、医療や教育の問題なども色々と考えていかなければいけないという課題もあります。そういったチームと一緒に今回の空飛ぶクルマも考えておりまして、これから北近畿豊岡自動車道や山陰近畿自動車道とかが出来たり、城崎大橋が出来たり、色々なことを考えると離発着場はここが良いのではないかと、こういう計画と一緒に考えると観光客はもちろんのこと、城崎や豊岡に住む人たちにとっても医療とか教育とか色々な拠点の近くに離発着場ができれば、これから先、豊岡に住む人にとって大きな意味を持つのではないかと、このことを考えておりまして、観光だけではなく、地元のまちづくりにおいても、非常に意味のある計画だなと思っております。我々としてはやるからにはできるだけ早い方が良いと思っております、2030 年というお話がありましたが、1 年でも早くできるように願っております、地元のメンバーは大変熱く計画を立てておりますので、1 日も早くこの計画が実装できるようにと考えております。

（座長）

ありがとうございました。まずは地元関係者の方からコメントをいただきました。続きまして皆様から、各事業者から発表いただきました実装事業の取組につきまして、コメントなどをいただければと思いますが、いかがでしょうか。様々な観点で、各社取り組まれていたと思いますが、いかがでしょうか。

（構成員）

先ほど、高宮様から城崎の話が出たのですが、3 年前に発足した空飛ぶクルマ研究室について県の呼びかけで代表を務めさせていただきましたけれども、まずは次代を担う若者層の社会受容性が必要ということで、観光甲子園という全国高等学校のコンテストを 3 年間やりました。

若い人が空飛ぶクルマがある社会を作るということをどういう風に考えているのかということで、空飛ぶクルマを使って自分の町をどう変えるかというテーマで、全国 300 校弱の高等学校から企画書の提出がありました。

私が想定している以上に様々なプランが出てきましたが、都市部の高校よりも地方の高校からの提出が多いということで、例えば過疎地で電車が廃線になったなどの課題を解決するために、空飛ぶクルマをソリューションとして使う

んだというものが圧倒的に多かったです。

加えて、大学生の空飛ぶクルマのゼミというものも3年間やって参りまして、明日、発表会をやるのですが、大学生が考える空飛ぶクルマのビジネスというのは、フィジビリティで考えると難しいのですが、こちらも社会課題を解決することを念頭に、空飛ぶクルマの活用を考えているということが分かりました。

あと、城崎にも少し触れさせていただきたいのですが、県の防災ツーリズムの委員長も拝命しておりまして、実際に防災の語り部と共に神戸と城崎の方に先月も行ってきましたが、未来を語るときに地面で語るのか、空から語るのかというようなことを考えると、空から100年前の震災のことを振り返りながらそれを解説できる、空飛ぶミュージアムとして空飛ぶクルマが機能するのではないかと考えました。

観光DMOのCMOもさせていただきましたので、観光関係でも言いますと、コウノトリの問題もジオパークの問題もそしてコウノトリ空港のことも全てのソリューションとして真ん中にeVTOLを持ってくると、社会課題の解決の道が見えてくるんじゃないかなということで、特にこの城崎、神戸というゾーンの中で、具体的な事業モデルを作っていく、県民や市民に自分ごと化いただくために若い人の発想を活用する必要があるのかなということを皆様の発表をお聞きして感じた次第です。

(座長)

私は話を聞く中で、地域の方が盛り上がっているような感じがして、非常に楽しく話を聞いておりました。ありがとうございます。時間もありますので、あと1名の方からお聞きしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(構成員)

各事業者からの発表をお聞きしまして、私の印象としては、水素社会に対する取組を少し思い出しました。

両方とも社会的な課題解決に非常に役立つということで進んでいるのですが、技術的な検討とかは色々と進んでいるものの、やはり様々な課題があり、社会受容性と言うことで機運を醸成しなくてはいけないとか、需要側と供給側のタイミングも合わせないとなかなか上手く進んでいかないとか、出てくるキーワードも同じようなものです。今回5社から発表していただきましたが、それぞれの取り組みが今どういうステージにあるかを意識していただいて、それぞれが同じ時期に上手く合うように、ある程度同じ時期に揃って実現するというようなことを意識して進めていただければと思った次第です。

(座長)

ありがとうございます。他にもご意見があると思いますが、時間の都合上、事業者の方に対するご意見はこれで終わりとさせていただきます。

もう 1 点、県から説明がありました今後の取組につきまして、こちらも時間の都合上、2 名くらいからご意見いただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。

(構成員)

県からの話としても今後、防災の方にも活用したいというような話があったかと思いますが、エアバス社の話の中で、離着陸場と充電インフラが確保できている限りは、非常に有効な手法になるという話が出ていたかと思います。

ただ、災害時に充電インフラを確保することは非常に難しいのではないかという気がしており、そのあたりを県の施策としてできるかはわかりませんが、災害現場でも充電インフラが確保できるような体制を上手く整えることについても少し検討する必要があるのではないかと思ってお話を伺っておりました。

(座長)

ありがとうございます。

(構成員)

我々も今回、まちづくり寄りの発表をさせていただきましたが、まさに電力グリッドとの接続の調査をしております。災害対応というのは兵庫県としても 1 つの大きなテーマということで取り組まれていると思いますが、我々としてもバーティカルポートがそういったときの拠点になり得るだろうということで、そうでないとバーティカルポートもただのインフラでしかないということになってしまいますので、今回は電力についてエネルギーマネジメントの検討も行いました。

具体的には、系統からの電気と、あとは例えば太陽光からの電気を貯めておいた蓄電池からの電気です。仮にグリッドの方で電力が喪失した場合に、蓄電池から電力を供給できるようにしておけば、電力喪失した場合でも送電することができ、場合によってはバーティカルポート側から電気を排出できるのではないかとこのところを電池のメーカーさんと一緒に検討しました。

県の方にはそういったレポートも出させていただくので、是非そちらの方も、参考にいただければと思っております。

(座長)

ありがとうございます。

（構成員）

ご存じのように、メーカーの機体開発が少し遅れおり、認証も遅れていることから、万博でもその影響が出ています。

また、ヘリに比べて騒音が低減できるというメリットがありましたが、元々期待されていた様々なメリットが、簡単には得られないということがわかってきました。

今、事業者の方もどちらかというと、2～3年の短期的なところで、事業の社内説明などのために少し盛って話をするということがあって、自治体も万博がありますので、非常に短期間の実証実験などをやってきたかと思います。

ただ、これからはもう少し先、住民の方々に本当にメリットがあるような使い方は何だというビジョンを、10年、15年先のビジョンを作ってそれに向けて、バックヤードに今から何をしていくのかを考えることが必要ではないかと思います。

そして、住民の方にどれだけの価値を提供するかということから見ると、短期的な目線で事業者の事業を結集するだけではなく、もう少し自治体や大学などが公共政策として考えることも必要なのではないかと、その方が長期的なビジョンが出てくると思います。

また、現在様々な都道府県で取組が進められていますが、どうしてもその自治体だけの中で収まってパーティーポートを作るとか、経路を決めているのですが、パーティーポートは複数ないといけないですし、事業にするには機体が20機程度ないといけないので、やはり日本海側なら鳥取県や福井県、そして瀬戸内の県も含めて、連携することも必要なのではないかと思いますので、大阪府との共同だけではなく、日本海側や瀬戸内の自治体とも共同で考えていただくということが必要ではないかと思いました。万博を過ぎたらある程度現実的な取組について盛らないで話をする機会があればと思います。

（座長）

ありがとうございます。私の方からも最後に振り返りをさせていただきますと、思っていたよりも地域の方が空飛ぶクルマに期待されていて、地域発の取組や準備なども始まっているような感じを受けました。

確実に1歩ずつ、万博以降も進んでいくためには、かみ合うと言いますか、5社の話を聞いておりましら、全部が上手くいくとすごいことになるだろうなという印象を受けました。おそらく各社、他社とも協力しながら、一部については他のプロジェクトとともに共同、連携しているというようなお話もあり、かみ合わせみたいなものを発信していくことが次の未来を想像しながら、うちの地域でもこうしていこうというロードマップを考えると、社会受容性を高めていく

というようなことに繋がるのではないかという気がしました。

よく言う砂漠の国のことわざで、「早く行くなら1人で行け、遠くに行くならみんなで行け」というものがある、県の事業として安全性を高める、リスク分散をするために、いかに地域が、理念や技術的、システムの連携するかということが長い目で見ると必要なのかなということを皆様からのご指摘等で私も思った次第です。

どうもありがとうございました。最後に守本企画部長からコメントいただけますでしょうか。

(企画部長)

最初に5社の皆様から話をお聞きして、非常に多角的な視点から、様々な示唆を得ることができ、非常に勉強になりました。

MASC様は水上ポートの可能性や、パイロット・整備士の養成など非常に幅広くご検討されてるなと思いましたし、エアバス様は災害時の救急医療ということで、私が思っていたより非常に広域で神戸から大阪に行って、洲本に行って、南あわじに行くというそこまでの広い範囲を視野に入れた緊急輸送ということを知りまして、こういったことが実現すると、これまでの災害対応というものの壁を1つ破れる可能性を感じました。

兼松様はまちづくりの中に位置付けて、住民の方々とビジョンを共有して、そこから何をやっていくか、バックキャスト的な思考で何が必要かということを考える、まさにこういう視点がこれからは求められるのかなということで非常に感銘を受けました。

丸紅様はいつも万博時のデモフライト実施に向けてご尽力をいただいております、感謝申し上げます。また、作っていただいた動画は、是非我々も来年イベントをやりまのでそういったところで活用させていただければありがたいなと思っています。

三井物産様は高密度運航で詳細なオペレーションを実施していただきまして、非常に先を見据えたものですが、将来的には必ず必要になるということで非常に有意義な実証かなと感じました。

今後なのですが、確かに我々も万博を1つのターゲットイヤーにしてこれまでやって参りました。いよいよ来月が本番でございますが、やはり万博というのはターゲットイヤーとはいえ、あくまでも1つのマイルストーンと言いますか、本当に途中経過でしかないなというのは今、痛切に感じています。ですので、来年からは少し腰を据えてしっかりと検討していきたいと思っておりますし、その中で住民とともに考えるとか、少し長期的な視野で考えていく、或いは他県との連携など広域的な視点で考えていく、そういったことにも是非取り組んで参りたい

と思っています。非常に今日は有意義で貴重なご意見をいただきました。引き続き、万博はもちろんのこと、万博後も皆様のお知恵をお借りしながら進めていきたいと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

(座長)

本日は時間を少しオーバーしてしまいましたが、その代わりに皆様から非常に有意義な取組を共有させていただいたということで、ご容赦いただければと思います。それでは進行を事務局にお返しします。

(事務局)

本日は貴重なご意見をいただきまして誠にありがとうございました。また、段取りが悪く、時間が押してしまいましたことを事務局からもお詫び申し上げます。本日の会議結果につきましては、議事録として、個人のお名前を伏せた形で、県のホームページで公開したいと考えております。それでは以上をもちまして、令和6年度第2回次世代空モビリティひょうご会議を閉会させていただきます。本日はどうもありがとうございました。